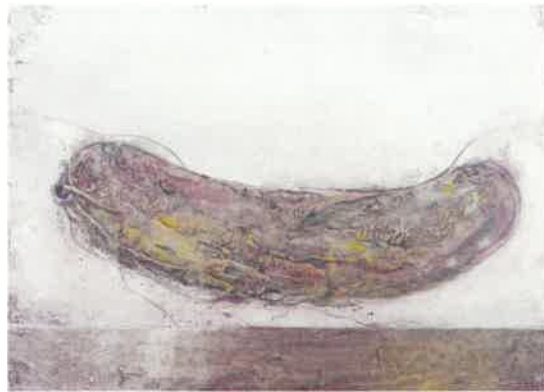


『かりんのある構成』

## 金井 順子 [愛知県]

コロナの時代の中で絵描きとしてなにか役に立てるものはないかと考えても無力感を持ってしまう昨今です。



『存在の不思議①』

## 木村 順一 [愛知県]

病、そして存在の不思議

年末から3月まで、腸捻転と腸閉塞で手術入院などで、ほとんど絵を描くことが出来ない状態だった。春陽の作品もとりあえず描いたものでマンネリそのもの。足下もふらついて何度ひっくり返ったことか。マンネリの中にも人体や病や身体の動きなど自分なりのテーマが見え隠れする。イチの小品では、存在の不思議さを描いていきたい。



『礎』

## 桜井 敬子 [神奈川県]

あれから長いようでもあり あっという間に一年が過ぎて終わりました  
何度も立ち止まりながら静観した日々  
窓から眺める 変化する景 更地になった場所に  
築かれていくものに美しいと思った。  
「礎」を描いてみた。

今朝も 陽光に刻々と変化する庭の緑に心を静める  
そんな小さな時間がとても大事な事だとコロナに教えられました。



『いつか来る日』

## 成實 久仁子 [神奈川県]

パンデミックの中昨年は紙面上での展覧会となりました。そして1年その間多くの展覧会が中止を余儀なくされました。いまだに明るいニュースもなく何かと気持ちも曇りがちな日々ですが、先日庭の植木鉢の土の中から現れた小さな蛙に遭遇。冬眠をしていたのでしょうか、どこからきたのかは謎ですがこの小さな生き物から笑顔をもらえました。春は確実に訪れています。この星はたくさんの繰り返しながら、その姿を変えてきたのでしょうか。さて今年こそはと背筋を伸ばして上を向きたいと思うところです。